

令和元年度第1回地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 議事録

日 時	令和元年7月4日(木) 14:00~15:37	
場 所	天神スカイホール ウェストルーム	
出席者	委員	福岡市医師会 副会長 寺坂 禮治 独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター 院長 藤 也 寸志 九州大学大学院医学研究院 准教授 福田 治久 福岡県看護協会 会長 大和 日美子 公認会計士 行正 晴實
	事務局	福岡市保健福祉局長, 同理事, 同健康医療部長, 同医療事業課長
	病院機構	理事長, 副理事長, 運営本部長, 法人運営課長, 福岡市立こども病院事務部長, 同総務課長, 同経営企画課長, 同医事課長 福岡市民病院事務部長, 同総務課長, 同経営企画課長, 同医事課長
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 局長挨拶 3 委員紹介等 4 議事 <ul style="list-style-type: none"> (1) 委員長・副委員長の選出について (2) 平成30年度業務実績について 5 その他 	
配付資料	<p>資料1 地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会名簿</p> <p>資料2-1 地方独立行政法人福岡市立病院機構平成30年度に係る実績報告書</p> <p>資料2-2 地方独立行政法人福岡市立病院機構財務諸表等</p> <p>資料2-3 地方独立行政法人福岡市立病院機構平成30年度決算について</p> <p>参考資料1 地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会条例</p> <p>参考資料2 年度業務実績評価等フロー</p> <p>参考資料3 地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針</p> <p>参考資料4 地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領</p> <p>参考資料5 平成30年度業務実績報告における各小項目の自己評価結果一覧</p> <p>参考資料6 地方独立行政法人福岡市立病院機構 平成29年度の業務実績に関する評価結果報告書</p>	

(1) 委員長・副委員長の選出について

【委員長，副委員長を委員の互選により選出】

(2) 平成30年度業務実績について

○事務局

【参考資料2～参考資料5について説明】

○病院機構（運営本部）

【資料2-1～資料2-3について説明】

○委員

評価するにあたって、例えば、年次有給休暇取得率の向上という項目であれば、それを評価するために取得率が上がったかどうか等を確認したうえでないとしつかりした評価ができない。そういった評価はなされているのでしょうか。

○病院機構（運営本部）

数値化できる目標は数値化しております。資料2-1の9ページでございますが、中期計画を策定するときに、こういったところは目標を立ててやっていこうということで数値化しております。委員がおっしゃった年次有給休暇取得率や時間外勤務実績も職場環境の向上という点では重要な指標と思いますが、今回の目標の指標には入っておりませんのでよろしければ口頭で説明させていただきます。

○委員

数値を今求めているというよりも、そういうことまで含めた評価をしないと全般に渡って文字だけの話になってしまうのではないかと感じたのでお話をさせていただきました。

○委員長

先ほど出ました9ページの目標値の達成状況ですが、全体をみて数字の評価で、絶対値のため、分かりにくいところがありますので、どこに価値や意味があるという表現ができますでしょうか。

市民病院の逆紹介率が153%は非常に高く、29年度よりさらに高くなったと思うのですが、これは何か院内でやってあるのでしょうか。私共は90%台でなかなか上がらないのですが、努力されている点がありますでしょうか。

○病院機構（副理事長）

入退院支援室というものを新設いたしまして、こちらで地域との連携を密にするということを考えております。もう一つ地域連携パスを有効に機能させるということ、これも随分軌道に乗ってきたということもありまして数値として反映してきたものと考えておりま

す。

○委員長

逆紹介率をあげるということが、新しい紹介の新入院患者数を増やすということにもつながってきます。博多区医師会では市民病院の評価が高い。現在地で頑張ってもらおうと私共も救われます。博多区医師会の評価が高いというのも、この逆紹介率が非常に高いということとつながっているものと思っております。

○委員

患者サービスという点で33ページあたりですが、数値を明確に出していただくと評価ができるのかなというところですが、例えば、どの病院でも待ち時間が非常に長くて、福岡市民病院も待ち時間対策をいろいろされていると思いますが、待ち時間の短縮がどれくらいできたのかという点や、ホームページを見せていただきましたがどのように工夫をされているのでしょうか。実績値の中の患者満足度評価がやや上がりきれないというのもございますので、こういうところの原因をどのように分析されているのかと思います。

○病院機構（市民病院）

外来待ち時間についてですが、会計待ち時間については、平均して7分から9分程度で推移しております。会計が混む時間によって、会計の人数を増やして適宜対応をしているところがございます。

○委員

とても短いですね。受付をしてから受診までの時間が非常に長いのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

○病院機構（市民病院）

受診の場合ですが、市民病院に関しましては、予約制となっておりますので、まず採血等をしてからの診察となります。診察時間に合わせ、先に採血に来ていらっしゃるの、スムーズにいらしていると思います。

○委員長

待ち時間は、どの病院でも問題はあります。37ページの医療の質の向上のところ、病院スタッフの確保と教育研修のところですが、こども病院は外国の患者も多いと思いますが、TOEICの受験支援制度というのは、どういう支援をされているのでしょうか。

○病院機構（理事長）

受験をする場合に受験料を助成する制度でございます。

○委員長

実績はどのようなものでしょうか。

○病院機構（こども病院）

30年度の実績ですけれども、4名が受験しております。1回目の受験料を助成しております。

○委員長

点数はどのようなものでしょうか。

○病院機構（こども病院）

資料を持ち合わせておりません。

○副委員長

11ページのGCUの病床再編がなされたとありますが、NICUは昨年の資料から18床から21床に増えたことが分かりますが、GCUも増やしたということでしょうか。

○病院機構（理事長）

GCUは、NICUに転化しておりますので減っております。

○副委員長

適正化されたという形で、質という観点ではよい方向にむかったと数値を見て理解しました。

○委員長

こども病院は30床ほど増床するという話は、まだなされていないのでしょうか。

○病院機構（こども病院）

当初の福岡市の新病院基本構想では、260床という数字が示されておりましたけれども、そのあと県からはそれ以上のことは認められておりません。

○委員長

現在の病床利用率が92%でしょうか。結構入ってますよね。39ページのところで、特定行為研修について2人とありますが、自院でやっておられるのですか。

○病院機構（市民病院）

聖マリア病院で受講しております。

○委員長

特定行為研修に関しましても、最初の段階では地域包括ケアシステムで役に立つと考えておりましたけれども、最近は、働き方改革でワークシェアリングやタスク・シフティングで役に立っています。本来は看護師さんがワークシェアリングの医師のパートナーであ

るべきだと思います。こういうところで頑張ってやらないと、働き方改革は進まないですね。

○病院機構（市民病院）

方向性としては、当院でも可能な限り研修ができるよう模索していきたいと考えております。

○委員長

ここでは、評価が低すぎるのではないかと、評価についての議論もやってよろしいのですよね。ここは低すぎるのではないかと、もう少し評価をあげてもよいのではないかとのご意見がありましたらお願いします。

○委員

49 ページの R P A（Robotic Process Automation）を民間で取り組みつつあって、これで業務を効率的にやらなければならないとされているのですが、30 年度から取り組まれたということでもいいですね。

○病院機構（理事長）

実際に 30 年度から計画して今年度に入っている程度、形が見えてきております。例えば、患者からのいろいろな要望やアンケートはスマホに入力していただいて、それを R P A で処理するような形が出てきております。

○委員

順調にされるとよろしいのですが、民間では結構ブレーキがかかってしまって、うまくいかないところが業種によってあるのですが、外部からチームが来ていただいているのでしょうか。

○病院機構（理事長）

いろいろ指導していただきながら内部で行っております。

○委員

是非成功していただきたいと思います。53 ページで地方独立行政法人法が改正となり業務方法書を変更されたと思います。これが内部統制のベースになると理解しているのですが、その方法書のなかで、リスクが高いところを引き出して、細かく対応していくというスタートになっていると思うのですが、順調にといいますか全部書き換えられたという理解でよろしいのでしょうか。

○病院機構（運営本部）

業務方法書でございますが、病院機構ではまず定款があり、その下に業務の進め方の基本的事項として定めているのが業務方法書でございます。平成 30 年 4 月 1 日の地方独立行

政法人法の改正によりまして業務方法書の中に業務の適正を確保するための体制整備を位置付けることとなり、その中で内部統制、例えば役員職員の倫理指針を定めることや内部統制組織を設置すること、コンプライアンス違反の事実発生時における対応方針を定めるようになりましたので当機構もそういったものを入れまして、それに基づいて規定の見直しや体制を整備したところでございます

○委員

中身については、監事が見られると思いますが、病院として、これが内部統制のベースという立て付けになっていると理解しております。それと、新聞にも載るような不祥事といますか、そういう大きなコンプライアンス違反や不祥事はなかったという理解でよろしいでしょうか。

○病院機構（運営本部）

懲戒処分を行ったときには、原則として公表することとしておりますが、平成30年度につきましては、そのようなことはございませんでした。

○委員長

では、時間の都合もございますので、後半の第3から第4の54ページから75ページの事項について、皆様から何かありましたらお願いいたします。

○委員

第4のこども病院ですが、点数がもっといいのではないかとことを申し上げたいです。昨年が評価5ですよ。参考資料5を見ておりましても、全国1位、2位、3位がたくさんあり、素晴らしいと思います。昨年はこれを凌駕するぐらい凄かったということでしょうか。

○病院機構（理事長）

ありがとうございます。昨年は、これに加えまして、研究したことがアメリカのトップジャーナルにも採択され、それが厚生労働省の政策上に活かされたということがありましたので評価5にさせていただきました。今回は、1位は今のところ継続が出来そうですが、それだけで評価5をつけるのはどうかと思ひまして評価4にしております。

○委員長

私も委員に同感でして、常に前進するための措置をしっかりとっておられますし、元々こども病院の業務というのは私達にとっては期待の星でもありますし、十分に応えていただいているのではないかと思いますので、評価5でもいいかと思いますが、いかがでしょうか。

○副委員長

評価の5か4かというところは、先生方のご判断にお任せしたいと思いますが、症例数

が非常に多いということは素晴らしいことだと思いますし、地域医療、質の向上に貢献されていると思います。例えば違う切り口として、DPCデータを使えば、患者さんがどこから来たのか、このような分析も可能かと思います。こども病院が福岡県内だけではなくて、他の圏域の医療も中核に抱えているという、このような観点を分析することによって、その点をプラスアルファとして評価に挙げる材料もあるかもしれませんので、もしそのような分析をされていて特筆すべき点があるならば、ここに記載されてもいいのではないかと思います。これは提案です。

○委員長

これはおそらくデータはあると思います。いかがでしょうか。

○病院機構（理事長）

心臓病に関しましては、長崎県、宮崎県、鹿児島県からヘリコプターで来ております。九州のみならず山口県などからも患者さんは来ております。また、周産期医療の双胎間輸血症候群（Twin-twin transfusion syndrome：TTTS）という病気で、血管がつながってアンバランスが起こっている患者がおりまして、その血管を子宮内でレーザーで焼くという手術があるのですが、そこができるのは九州近辺ではこども病院しかないですから、その患者さんも広範囲から来ております。

○委員長

いろいろメディアにも出て、搬送されるシーンなど何度も見たことがありますが、確かにそういう実績は表現されてもいいのではないかと思います。収益も年間で8億円増ですよ。なかなか通常の病院で年間でそれだけ上げるのは難しいと思います。市民病院で3億円増は、それぐらいはあってしかるべきと思いますが、8億円増はかなりの実績だと思います。

それでは、こども病院の医療機能の充実は、点数を上げるというところでよろしいでしょうか。

○委員

去年もそういう議論があり、非常に特徴的な業績を加味して評価5にされた。私は他のところの評価委員もしておりますが、評価5は通常ありません。世界が驚くような何かがあった場合だけ評価5になるのだと思います。今おっしゃったことが、医学的医療的に非常に高みにあるということはわかるのですが、この評価5というのは、国も想定していない程度のことだと思います。そういう意味で昨年も申し上げましたが、記載を付け加えて評価5にさせていただいたような感じなのですが、そういう昨年並みのことがあれば胸をはって評価5でいいでしょうと言えるのですが、今回はそこまではないかと個人的には思います。医療的には議論していただいて判断していただければと思います。

○委員長

福岡市のこども病院というのは、診療機能が非常に特化しておりますし、産婦人科の診

療域も増えましたし、そういう意味では総合的な機能をどんどん上げて行っているという実感は医療をやっている者からすればあります。今いろいろな医療が行き詰っており、なかなか斬新的なことが出来ないのですけれども、そういうものをみれば、こども病院は非常にアクティブにやっているというのは明らかです。一般病院の福岡市民病院は、我々が読み取るところ、一般病院の宿命といいますか劇的な前進ができないというところですが、こども病院の領域は非常に新しいことがどんどん出てきておりますので、そういう意味ではかなり特出すべき医療機能を行う医療機関としてはできていると思います。去年は、特にインターナショナルな論文がでました。藤先生いかがでしょうか。領域が違う方から見れば、評価5は高すぎると言われています。

○委員

評価方法そのものが、順調にやっているものが評価3で、少々進歩したものが順調というのであれば、4というのは、相当アップしないと評価にならないというものなのですね。そういうことを考えると、今まで評価4がたくさんついているのも本当に評価4なのかという議論もたくさん出てくると思います。基準がないと申しますか、つけにくいのですが、先ほどおっしゃった世の中の流れに準じてするならば、評価5というのは、よほどのことでないかないのかもしれないかもしれません。去年はよほどのことで、すごいジャーナルに載って、政策にも反映されたということであるのであれば、今回は、評価4でもいいのかとも思いますが5でもいいような気がします。

○副委員長

昨年度はトップジャーナルに載ったということが特筆すべき点でありますので、昨年と比べると、その水準にはいかないのかなという気がいたします。

○委員長

財務について、こども病院が11億円の黒字で、市民病院が3,4千万円の黒字ということについては、評価はいかがでしょう。

○委員

これには運営費負担金が入っており、それをどう見るか、今は中期目標期間中のため、決められた額が出ておりますが、これが最後にきちんと市に返納しましたよとならなければならない。対前年でこども病院は収益が8億増、市民病院は収益が3億増とありますが、収益には費用が必ずかかるわけですから、そこも議論しないといけません。確かに、こども病院がいろいろなことで収益が上がってきているということはわかりますが、それに伴って費用も出ているわけで、その中で純利益を出してあるということは意味があることだと思います。勢いのある病院になりつつあるという点は高く評価できると思います。

○副委員長

私も同感で、この純利益を上げてあることは、とても素晴らしい。

○委員

65ページのレセプトチェックのところ、市民病院がレセプトの査定率がどの程度あるのかというのが気になります。手術室が7室あると聞いておりますが、それで年間これだけの手術件数を上げられたこと、救急専門医も増員され、救急患者も増えたというところでは、非常に収益も増えた分、診療材料がかかる手術が増えています。そういう点で3割近い診療材料比率になっているというところで、なかなか儲けが上がらないのではないかと思います。特に手術をすればするほど、査定率が高くなることもありますので、市民病院の査定率がどうなのかという点と、他院で引き受け困難な患者が救急で運ばれてくるというところが市民病院の特性だと思いますので、こういうところの未収金額は年間どれくらいあるのでしょうか。

○病院機構（市民病院）

レセプトの査定率ですけれども、平成30年度につきましては、0.7%。ご指摘のとおり手術件数が増えて、特に循環器内科のPCIの診療材料の査定が目立ってきております。未収金に関してですが、大体年間で、ここ1、2年で700万円程度残っている状況になっております。これに関しましては、随時法律事務所と連携を取りながら回収に努めているところでございます。

○委員

査定率は、社会保険と国民健康保険で違いますか。

○病院機構（市民病院）

若干ですが、社会保険の査定の方が厳しい状況です。

○委員長

査定に関しましては、いろいろ波もありますが、0.7%は少し高いでしょうか。

それでは、時間になりますが、評価に関しましては、自己評価に沿った形でよろしいでしょうか。評価5のところをどういたしましょうか。自己評価どおり、評価4でお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。

○委員

はい。

○委員長

それでは、全体を通して、ご質問ご意見ありましたらお願いします。

○委員

最初の繰り返しになりますが、来年度からの評価で、クリニカルパスの利用率であったり、研修の参加率であったり、もっと数値化できるものがたくさんあると思います。大変かと思いますが、細かなことを一つ一つ積み上げていくことが、昨年より進んでいること

を示すためには、それが客観性を持つ大きなデータとなると思いますのでご検討いただければと思います。

○委員長

その点、よろしくお願いいたします。

その他、全体を通して何かございますでしょうか。

○委員

こども病院が今のアイランドシティに移られて、病院として成長している見えるのですが、そのように評価されているか、成功だったと考えていらっしゃるのかお聞きしたい。

○病院機構（理事長）

私は、前の病院は知らないため比較はできませんが、少なくとも今の病院に関して言いますと、やりたいことはいろいろありますが、部屋が手狭になってスペースがないという状況はございますが、現状としてはいろいろなところから患者さんに来ていただいていますし、医療機能も非常に高くなっておりますので、移転してよかったのではないかと考えております。バスの便がまだまだ不十分ですが、都市高速道路がさらに近くまで来ますと、あるいは隣に建設している西鉄のマンションが完成しますと、さらにバスの便も増えて交通の便は今より良くなるのではないかと考えております。

○委員長

私も経過を見ておまして、移転に対し反対意見もありましたが、移ってみれば問題はなく、アクセスの問題等言われましたが、救急搬送に関しては全然問題は起こっておりません。建てたばかりで、もう手狭と言われてはいますが、発展する病院はそうなります。医療の方が変わってくるものですから、頑張っておられると思います。結果的にはよかったと思います。

その他ございませんでしょうか。

それでは、他にご質問やご意見もないようですので、本日の審議はここまでにしたいと思います。

その他

○事務局

次回は、本日皆様から頂きました意見等を踏まえて、平成30年度年度実績について、福岡市としての評価案を提示させていただき、その評価案にご意見をいただきたいと思っております。

【第2回の日程等について説明】

これをもちまして、本日の委員会は、終了させていただきます。